あのときの常呂・写真館

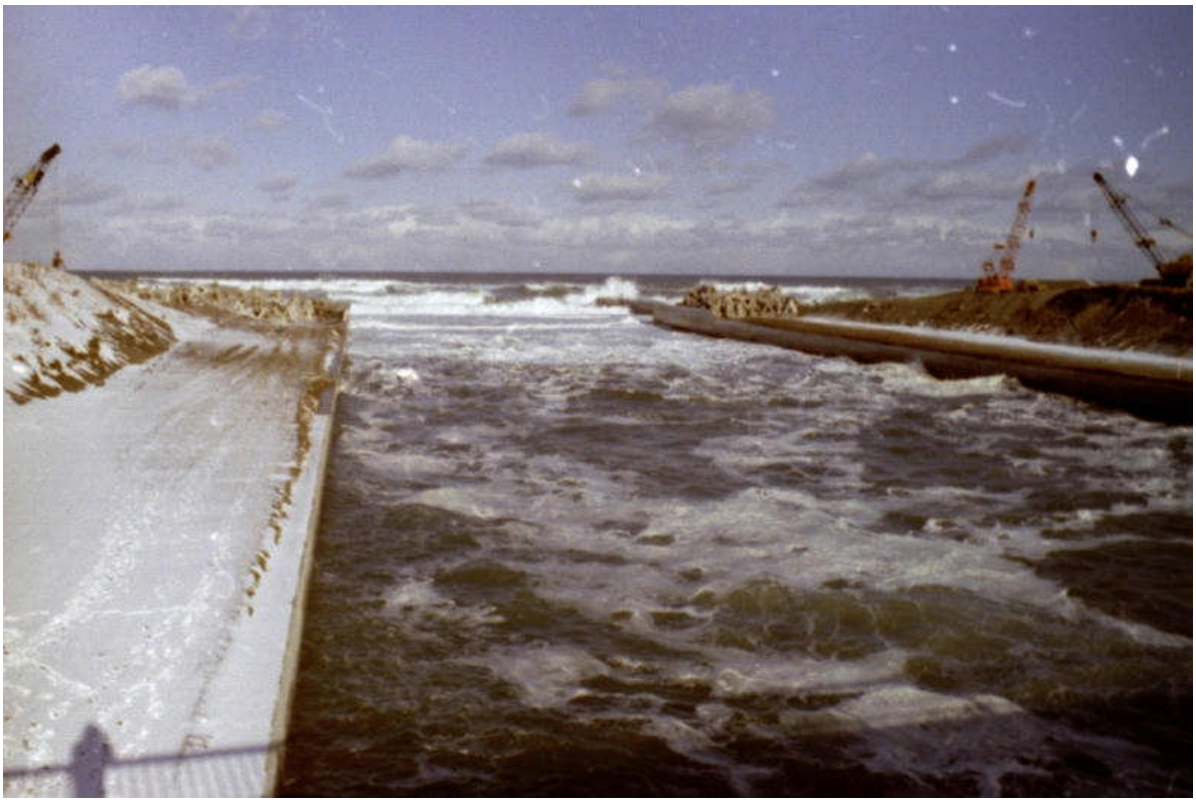
VOL 74

（１９７８年）

昭和５３年１２月６日　サロマ湖第二湖口通水式

▶サロマ湖の第二湖口の通水に関して、昭和５４年１月号の「広報ところ」と『常呂漁協４０年誌』から抜粋して紹介します。

「…サロマ湖の養殖業が増えるに従って、養殖に適した環境をつくる必要が問われ、常呂・佐呂間・湧別の３町と関係漁協が手を取り合い、サロマ湖開発期成会を結成し、道に対して新たな湖口の開削を要請。昭和４８年９月、道は要請を受け、サロマ湖の海水循環を活性化し、漁場を若返らせるため、道の直轄事業として第二湖口の開削に着手。以来、１７億２千万円にのぼる巨額の工事費を投じ、満５年の歳月を要して新しい湖口が誕生しました。なお、サロマ湖とオホーツク海との通水は、１２月６日の爆破作業によって行う予定でしたが、３日前からの大時化によって湖口の海岸が破壊され、前日の早朝には自然通水するというハプニングがありました。通水式の２日後の８日、中央公民館を会場にして完成通水記念式典が行われました。



通水した第二湖口

＊左・左下：通水式のようす
　　テープカットは、サロマ湖開発期成会の代表５名
＊第二湖口の水路は、幅５メートル、長さ３００メートル、深さ５メートル

＊下：サロマ湖第二湖口完成通水記念式典

＊下：昭和５２年１月号の「広報ところ」の表紙に使用したサロマ湖第二湖口
開削工事中の写真

＊左：昭和５４年９月１日に、常呂町が発売した「サロマ湖第２湖口通水記念町営バス乗車券」

＊昭和５４年８月２５日付けの「北海タイムス」は、「過疎バスの苦しい台所を知ってもらい、サロマ湖に来た観光客に一人でも多く乗ってもらおうと…町営バスの記念乗車券を発売する。過疎バスで自治体が記念乗車券を出すのは同町が全国初ではないかという…同町特産のホタテをかたどった直径１２センチの乗車券には、第二湖口、栄浦の夕日、町営バスの写真がレイアウトされ４００円。１６０円２枚、８０円１枚の切符がついて、観光客に受けそうだ」と紹介しています。（記事抜粋）